

各関係機関の長 様
(農政担当)

岐阜県病害虫防除所長

病害虫発生予察情報について (送付)

このことについて、下記のとおり発表したので、指導上の参考にしてください。

記

令和3年度病害虫発生予察注意報第6号
(果樹カメムシ類)

令和3年度病害虫発生予察注意報第6号

令和3年9月16日
岐 阜 県

作物名 果樹 (カキ、ナシ、リンゴ、ミカン等)

病害虫名 果樹カメムシ類 (主にチャバネアオカメムシ新世代成虫)

1 発生地域 美濃地域 (岐阜・西濃、中濃及び東濃地域)

2 発生時期 9月中旬～

3 発生程度 多い

4 予報の根拠

- (1) 予察灯におけるチャバネアオカメムシの累積誘殺数 (8月第2半旬～9月第1半旬) は岐阜・西濃地域で2,166頭 (平年1,223.9頭)、中濃地域では608頭 (平年461.9頭) と、それぞれ平年の1.8倍、1.3倍であった (図1、図3)。
- (2) ヒノキ毬果の調査では8月中旬から口針鞘数が増加し、9月上旬に一部地点では25.5本/果と離脱の目安の25本/果を超えており、すでにヒノキ林からのカメムシの離脱が始まっていると考えられる。
- (3) 8月以降、ツヤアオカメムシ及びアオクサカメムシがそれぞれ岐阜地域、中濃地域の予察灯で平年より多く誘殺されている (図2、図4)。
- (4) 一部の果樹園では、チャバネアオカメムシなど果実を吸汁するカメムシ類の飛来がすでに確認されている。
- (5) 名古屋地方気象台の1か月予報 (9月9日発表) では、気温は平年並～高いと予想され本虫の活動に好適な条件が続くため、園内への飛来と果実の吸汁による被害果の発生が懸念される。

5 防除上の注意事項

- (1) 果樹カメムシ類の被害の発生には地域差や園地差があるので、園内へ飛来を確認したら直ちに防除を実施する。なお、薬剤散布は夕方か早朝に行うと効果的である。

- (2) 果樹カメムシ類の飛来は夜温及び湿度が高く、風の弱い日に多くなるので注意する。
- (3) 防除に当たっては、周辺環境、気象条件等に注意し、薬剤の飛散防止に努める。
- (4) 農薬は、最新の登録情報 (<https://pesticide.maff.go.jp/> 農薬登録情報提供システム) を参照し、適正に使用する。

— 参考資料 —

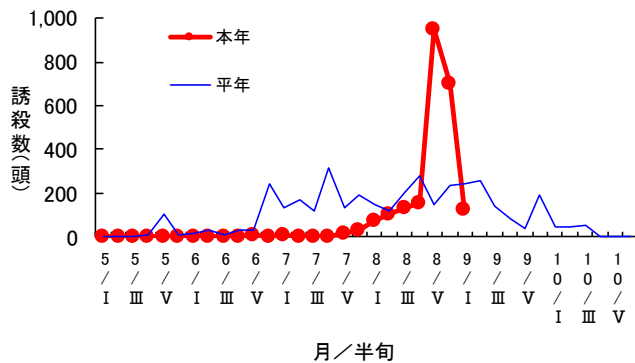


図1 予察灯によるチャバネアオカメムシ誘殺数の推移
(岐阜市則松)

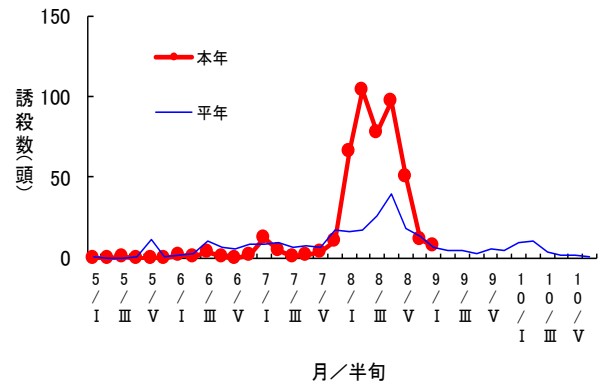


図2 予察灯によるツヤアオカメムシ誘殺数の推移
(岐阜市則松)

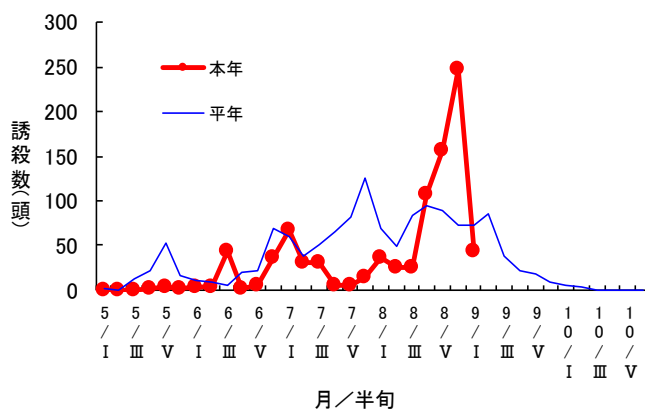


図3 予察灯によるチャバネアオカメムシ誘殺数の推移
(美濃加茂市山之上町)

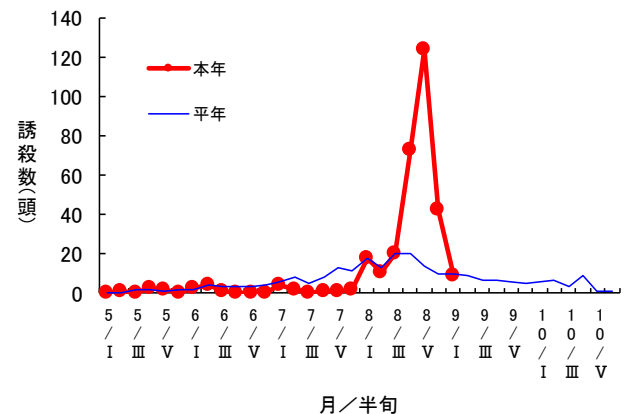


図4 予察灯によるアオクサカメムシ誘殺数の推移
(美濃加茂市山之上町)